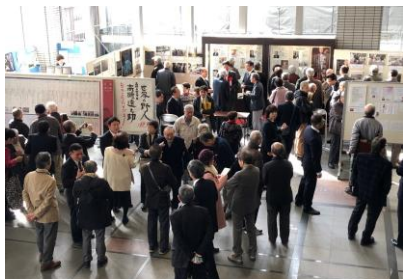


『高碓達之助パネル展』特集



高槻市が生んだ偉人・高碓達之助の命日にあたる2月24日(日)、「高碓達之助パネル展」が高槻市総合センター1階ロビーで開催されました。このパネル展は我が会と「高碓達之助に学ぶ会」が共催で昨年の発足記念講演会に続いて行われたものです。今回は高槻市からも後援の承認もいただき、400余人に達する入場者があり大いに賑わい想定外の反響がありました。

オープニングには、主催者側を代表として角会長（高碓達之助に学ぶ会会長）の挨拶、まずは我が会の目的を述べられた後「高碓氏は実業家として東洋製罐を立ち上げ経営に携わり一方で戦後日本のエネルギー開発に心血を注ぐほか政治家として日中・日ソ・日米ををはじめアジア・アフリカ諸国の要人と渡り合うスケールの大きな自由人であった。すなわち行動を伴った“野人”が高碓翁である」と紹介されました。



来賓として濱田高槻市長から、我が会の成功を期待するとともに高槻市の誇りを継続して伝えて頂きたいとお言葉をいただきました。他には樽井高槻市教育委員会委員長、金田高槻商工会議所会頭、芝井関西大学学長、大木久敬会顧問、胡甲南大学教授にも出席していただき、オープンセレモニーのテープカットも行われ、多数の方々が参加されました。そして、10時からの開場となり熱心に見学されていました。

パネル展には高碓記念館や電源開発の協力を得て40枚の写真に遺品が展示されました。内容として、世界の野人として、諸外国の首脳との多彩な交流、故郷の悲母観音像の建立に秘められた母への愛、ダム建設で水没する巨木の桜を移植で故郷を失う村人を助ける心、動物愛として万物を愛する心など、高碓翁の足跡などが紹介されました。



映像コーナーでは、TBSの“一本の桜”、NHKの“日中外交はこうして始まった”など3本が放映されました。また、「ダムに沈む荘川桜」の紙芝居は、今回初めてのお披露目で、我がメンバーの熱のこもる内容は来場者も感激なさっていました。



展示品では、高碓がアメリカから持ち帰ったマイヤーレモン、じゃこ豆、ノサップ昆布などで、街おこしに貢献できればとのことです。

■2/4(月)今年初めての例会開催される

高槻クロスパル会場において“高碓達之助の国際感覚”をテーマに(株)東洋製罐元役員 甘田外成氏より講演していただきました。

講演では戦後高碓翁が国際政治家として活躍するきっかけともなり、また今日に至る我が国の国際舞台での政治的スタンスを明確にする事ともなった1955年のバンドン会議(アジア・アフリカ バンドン会議)についてでした。

3/4(月) 14:00～16:00「高碓達之助映像から」
担当：語り継ぐ事務局 クロスパル第一会議室

3/18(月)お休み

4/1(月) 14:00～16:00 高碓パネルディスカッション
担当：内野・川崎・北村クロスパル第二会議室

4/15(月) 14:00～16:00 見学会担当：中川修一

【語り継ぐ会連絡先】 馬淵晴彦

FAX:072-689-3674

メール:h_mabuchi@office.zaq.jp

HP : <http://takatuki-meijo.sakura.ne.jp/>

NPO 法人

高槻名誉
市民を語り
継ぐ会